

# 活力ある 日本の再生のために



国務大臣・内閣府特命担当大臣

行政改革・規制改革・地域再生担当  
構造改革特区・産業再生機構担当

衆議院議員  
**村上 誠一郎**

むらかみ・せいいちろう 昭和27年生まれ。東京  
大学法学部卒業。通産相秘書を経て、昭和61年、  
衆議院議員初当選。以後6期連続当選。衆議院  
大蔵常任委員長、大蔵総括政策次官、初代財務  
副大臣等歴任。今年9月、第2次小泉改造内閣で、  
国務大臣・内閣府特命担当大臣に就任。  
愛媛2区（今治市、伊予市、北条市、東温市、越  
智郡、温泉郡、上伊予郡、伊予郡）選出。

「皇国ノ興廢、此ノ一戦ニ在リ。  
各員層奮勵努力セヨ」

日露戦争の明暗を決定した日  
本海軍でロシア・バルチック艦隊  
を迎え撃つ、日本連合艦隊・旗艦  
三笠から発せられた、歴史に残る  
名文です。

この文章を考えたのが、東郷平  
八郎連合艦隊司令長官の右腕秋  
山真之参謀です。当時の日本には  
海軍戦術に関する書物はなく、秋

山参謀は世界中のあらゆる兵書  
を読み、最後にたどり着いたのが

能島村上水軍の古文書「能島流  
海賊古法」でした。その結果、「わ  
が全力をあげて敵の分力を撃つ」  
という村上水軍の精神を活かし、  
「常に長蛇の陣をとる」という戦

術を基本に、「丁字戦法」を生み  
出し、遂にはバルチック艦隊を打ち  
破るといふ、海戦史上類を見ない  
大勝利を収めたのです。

## スリムで効率的な政府 民間の 活力を引き出すことをめざす

現在、国の歳出は約八十二兆円  
で、歳入のうち約三十七兆円が国  
債等です。国の借金は累計でなん  
と約四百八十三兆円に上り、地方  
分を合わせると、約七百兆円にも  
なります。そして、この借金は年々  
増え続けています。

赤字財政を変えていくには、行  
政改革と規制改革が急務なのです。  
行政改革は、スリムで効率的な  
政府の実現を目指すものです。

大変幅広いテーマですが、具体的  
には特殊法人等の改革、公益法人  
制度の改革、公務員制度の改革な  
どです。中でも、特殊法人等の改  
革については、「官から民へ」という  
ことで、官が独占していた業務の  
中で民ができるものは積極的に民  
に移し、国の仕事を減らしていく

私は能島の村上水軍の末裔で、  
村上家の第十八代当主になります。  
村上水軍は、日本史ではさま  
ざまな場面に登場してきますが、  
世界史においても三度登場して  
います。  
一度目は、鎌倉時代に来襲した  
蒙古を果敢に迎え撃つたとき。二  
度目は、南北朝の動乱期に朝鮮半  
島や中国大陸沿岸で猛威を振る  
い、「明」が滅ぶ原因をつくった「倭  
寇」として。そして、三度目は先  
述べた日露戦争・日本海海戦での  
戦略に関してでした。

わが村上家の家訓は、「国家の  
大事には親兄弟のしかばねを乗  
り越えて戦え」です。

伯父・孝太郎は大蔵省主計局  
長として、築地市場に向き自分  
自身で物価などを調査し、予算編  
成の交渉に当たりました。大蔵事  
務次官から参議院議員になってま  
もなく五十四歳で逝去。衆議院

議員だった父・信二郎も私が大学  
生のときに五十三歳でなくなりま  
した。私は、国家に尽くす二人の  
志を遂げるために、三十四歳で衆  
議院議員に当選し、史上最年少で  
大蔵常任委員長になりました。  
現在、日本は明治維新、太平洋  
戦争以来の大きな津波に襲われ  
ています。

私はこれまで、大蔵政務次官や  
初代財務副大臣などを務めてき  
ましたが、その立場で扱うことは、  
国家全体についての「総論」でした。  
樹木に例えるならば、「幹」の部分  
に当たります。そして今回のボス  
トでの仕事は、あらゆる産業が対  
象であり、全国各地への広がりも  
あり、さらには各省庁にも関係し  
ているのです。まさに「総論」に対  
して、「各論」であり、「幹」に対し  
て、「枝葉」である、すべての現場に  
関係しているのです。

れないおそれがある」というのが、  
厚生労働省の見解です。しかし、  
現状のままでは、難病等の治療に  
意欲を持つ進歩的な医療関係者  
の道を塞ぐことになりかねません。  
ガンの新薬にしても、生命にかかわ  
るだけに、患者は最新の医療を早  
く受けたい、医師も最新の良い薬  
や治療法を導入したいという思い  
が強いでしょう。

また、公共サービスの入札を官  
民で競う市場化テストの導入につ  
いては、民間の知恵を活用するこ  
とで多様なサービスの提供が可能  
になり、民間の仕事が増えて雇用  
増となるメリットが期待できます。  
これを成し遂げたケースとして

有名なのが、アメリカのインディア  
ナポリス市です。道路や刑務所の  
管理など、可能な業務はすべて民  
間に委託することで、行政の仕事  
を七割減らし、市民税を半額にし  
たのです。その他にも学校給食や

一般廃棄物の収集など、民間で  
できる仕事は多くあります。家庭ご  
みの収集を受業者負担にするこ  
とで、ごみ出しのルールは守られ、  
ごみ減量化にもつながります。

できるだけ早く市場化テストの  
モデル事業を選定して、二〇〇六  
年度の全面実施につなげていき  
たいと考えております。

これまでは人口が増え、経済規  
模が拡大し、税収も増えることで  
行政サービスを拡大してきました。  
しかし、収入が減ってもサービスは  
増えるという構造が莫大な財政  
赤字の要因となりました。地方も  
これまでは国に「おんぶに抱っこ」  
でした。

今後は、人口が減り、経済規模  
も縮小し、税収も減ることとなり  
ますので、行政サービスも必要最  
小限に整理していかなければなり  
ません。地方に権限と財源を移譲  
する代わりに、それぞれの財政状

況に應じ、税収の範囲内で効率的に努めつつ、知恵を絞り合い、独自の町づくりに取り組んでいくことが求められているのです。

最後に、私は財政・経済の改革に加えて、教育の立て直しが急務だと考えています。

明治維新の立役者たちは、藩校や寺子屋等で英才教育を受けました。戦後復興を支えた人々たちも、高等師範や旧制高校といったスペシャリストを育成する学校に学びました。戦後の六・三・三制は、国民全体の教育水準のレベルアップに貢献したかもしれませんが、優秀なスペシャリストの育成、公の精神の教育がなされていなかったと言わざるを得ません。



です。遅れば遅れるほど次の世代の痛みが大きくなると思います。次代を担う子供たちにごころ豊かな社会を引き継いでいくための努力をしてまいります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 村上誠一郎の「私の二冊」 司馬遼太郎著『世に棲む日日』

かつて日本は、「明治維新」という大変革を成し遂げました。

中でも長州藩は倒幕へ暴走し、その頂点に立ったのが吉田松陰であり、彼の思想を行動に移したのが高杉晋作でした。

『世に棲む日日』は、「狂」に生き た吉田・高杉両名の長州人を中心に変革期の人物群を描いた物語です。松陰は海外渡航を試みるという大禁を犯したことで、郷里の萩郊外に監居させられます。その後、安政の大獄で死罪に処せられるまでの三年間、粗末な小屋で私塾「松下村塾」を主宰し、高杉をはじめ、久坂玄瑞、伊藤博文、山形有朋ら約八十人の門下生を輩出させました。

松陰は、「人間というものは、生死を度外視して、何かを成し遂げる心構えこそ大切なのだ」と訴えました。若者を相手に細々と語り続けた小さな種は、やがて狂気じみた、すさまじいまでの尊王攘夷運動に成長

していったのです。

命を賭けて改革に突き進んだ吉田松陰は三十歳で、高杉晋作は二十九歳で亡くなりました。

私は、「世に棲む日日」を大学在学中に読みました。未来の国家のために自身の命をかけてまで邁進していった姿に深い感銘を受けました。

現代の日本には、法律や諸制度が数多くありますが、しかし、二百六十数年続いた江戸幕府体制の方が、今の規制より厳しかったかもしれませ

ん。革命家たちは、自身の理想の社会を得ようとしての革命を起こしたのではなく、「流れ」として時代を動かしたのです。

政治家として大切なのは、建前論やきれいごとではなく、実態論・現実論から出発し、勇気を持って問題に立ち向かうことであり、それが日本の再生に何よりも必要なことだと思っております。